

**バイオテクノロジー研究会**

**◆バイオテクノロジー研究会全体【植物研究部会を含む】**

<p>1, 2 月</p>	<p>全体会議を2月15日に開催</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ERAプロジェクト調査報告第31号勉強会             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) ERAプロジェクト調査報告第30号 (JAN2017) 1月発刊予定</li> <li>(イ) ERAプロジェクト調査報告第31号 (MAR2017) 3月発刊予定</li> </ul> </li> <li>2. ERAワークショップ・勉強会のフォローアップ             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 後藤氏より、雑草性に関する論文作成の進捗について報告が行われた。論文の内容については大澤先生、黒川先生に相談しながら進めており、黒川先生からは論文の概要について了承を得た。今後は農林水産省に進捗を報告し、6月に育種学研究に日本語で投稿することを目指している。</li> <li>山根氏より、ILSI-CERA (Andrew Robert)に対し、論文を作成中であること及び原稿レビューのお願いをすることが合意された。また、IFBCへの確認が必要となるか、併せてAndrew氏に確認することとした。</li> </ul> </li> <li>3. ゲノム編集ワークショップの開催             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 高橋氏より、準備状況の報告が行われた。開催日は7月10日、目的はゲノム編集に期待が高まっていることを国民に知らせることと、国民への情報提供活動の成果、海外の規制状況の説明とし、関係団体と共催で行う。</li> </ul> </li> <li>4. GM食品添加物の今後について：             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 加村氏より、添付スライドに基づき状況の報告が行われた。高度精製添加物の自主判断基準について、1月17日に発表されたFSCからの文書中の「確認済み非有効成分」が何を指すものなのか、今後MHLWに確認する予定。</li> <li>(イ) 高度精製食品については、高度精製添加物の自主判断基準の問題が解決後に取り組む予定であることが報告された。</li> </ul> </li> <li>5. ILSI HESIのアレルゲンデータベース COMPARE の紹介が笠井氏から行われた。ILSI HESI よりコミュニケーション用資料が送られてきたら、次回の研究会でその扱いについて検討することとした</li> <li>6. Biosafetyに関する報告             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 笠井氏より、昨年12月にメキシコで行われた COP/MOP 13会議の報告が行われ、懸案となっていた Risk assessment document は、内容には問題はあるものの全く強制力を持たない” take note of” という位置付けになったこと、synthetic biology の議論が利益配分及びリスク評価の観点から今後も長く続くと思われる事などが紹介された。</li> </ul> </li> <li>7. 会計報告             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 加村氏より会計報告が行われた。</li> </ul> </li> <li>8. 研究会人事異動             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 末木さんの訃報について：今後、偲ぶ会があった場合にはメンバーに報告することとなった。</li> <li>(イ) 池畑さんの退職について：感謝の意を表すため、昼食会を行うこととした。</li> <li>(ウ) 4月からモンサントの ILSI 代表は山根氏から中井氏に交代。</li> <li>(ア) それに伴い、4月からの幹事会メンバーの変更が承認された：研究会会長 笠井氏；副会長 加村氏、高橋氏、中井氏</li> </ul> </li> </ol>
<p>3, 4 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2017年度 第2回目の会議を4月18日に開催             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 4月からの新幹事の紹介。</li> <li>(2) ERAプロジェクト調査報告 第31号の勉強会。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> </li> <li>(3) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ILSI HESI の要請を受け、今後本データベースを関係各所にどのように普及するかについて議論を行った。</li> <li>・追加のコミュニケーション用資料を待って、次回の会議で再度話し合うこととした。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>

	<p>(4) GM 微生物食品について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GM 微生物食品の安全性評価資料作成のポイントをまとめた文書を ILSI バイオテクノロジー研究会のウェブサイトに掲載することについて合意した。</li> </ul> <p>(5) GM 作物について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ISBGMO 会議が 6 月上旬にメキシコにて開催されることの報告が行われた。筑波大学教授 大澤先生など 5 名の専門家に参加を依頼。研究会からは中井氏、松下氏が参加予定。9 月から 10 月に報告会を開催予定。</li> <li>昨年 11 月 14 日に開催された ERA 勉強会の内容をまとめた論文準備の進捗が報告された。今後、専門家のレビューを受け 6 月末に投稿予定。</li> <li>7 月 10 日に、SIP 次世代農林水産業創造技術コンソーシアムとの共催で開催を予定しているゲノム編集ワークショップの準備状況について報告が行われた。</li> </ul> <p>2. ERA プロジェクト調査報告 第 31 号を 4 月に発行。</p>
5, 6 月	<p>1. 2017 年度 第 3 回目の会議を 6 月 26 日に開催</p> <p>(1) 在田氏が事務局次長としてバイオテクノロジー研究会の支援をしてくださることになった旨が報告された。</p> <p>(2) 5 月 18 日の ILSI 部会長会議の報告。</p> <p>ILSI の行動原則について研究会メンバーに周知した。また、歳入・歳出の透明性について、再度、バイオ研究会として事務局に要望することが合意された。</p> <p>(3) ERA プロジェクト調査報告 第 33 号の勉強会。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> <p>(4) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本データベースの普及にあたり、チームを立ち上げた。今後は、チームで説明資料を作るなど、ILSI HESI と連携を取りながら進めることとした。</li> </ul> <p>(4) GM 微生物食品について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6 月中旬に ILSI バイオテクノロジー研究会のウェブサイト上に遺伝子組換え微生物食品の安全性評価資料作成の手引書が掲載されたことが報告され、各自周知に努めることとなった。</li> </ul> <p>(5) GM 作物について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6 月に開催された ISBGMO 会議報告が、参加した中井氏、松下氏より行われた。現在、イルシー誌に掲載する原稿の作成中。</li> <li>昨年の ERA 勉強会の内容をまとめた論文準備の進捗が報告された。</li> <li>7 月 10 日開催のゲノム編集ワークショップの準備状況について報告が行われた。</li> </ul> <p>2. ERA プロジェクト調査報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第 32 号は 7 月発行に向け準備中。</li> <li>報告 No.151-300 の集約版を作成することを合意。準備チームを立ち上げた。</li> </ul>
7, 8 月	<p>1. 2017 年度 第 4 回目の会議を 8 月 9 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 34 号の勉強会。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> <p>(2) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ILSI HESI よりデータベース紹介用のプレゼン資料を入手し、9 月初旬に関係省庁の担当者を訪問し説明することとした。</li> </ul> <p>(3) GM 微生物食品について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高度精製食品について、新たな評価方法の試みがなされている旨が森下氏より報告さ</li> </ul>

	<p>れた。</p> <p>(4) GM 作物について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7 月 10 日開催のゲノム編集ワークショップについて、約 270 名が参加し、今後「イルシー」誌並びにホームページにおいて開催報告をする旨が報告された。</li> <li>・ 今秋予定されていた ERA 勉強会について、論文投稿の準備状況に合わせて時期を再検討することが話し合われた。</li> </ul> <p>(5) 今後の勉強会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次世代シーケンスのリスク評価への活用について勉強会を開催することとなった。</li> </ul> <p>2. ERA プロジェクト調査報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 33 号は 9 月発行に向け準備中。</li> <li>・ 送付リストの見直しを行うこととした。</li> </ul> <p>報告 No.151-300 の集約版は 34 号と一緒に 10 月に発行することとした。</p>
9, 10 月	<p>1. 2017 年度 第 5 回目会議を 10 月 26 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 35 号の勉強会。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> <p>(2) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ILSI HESI よりデータベース紹介用のプレゼン資料を入手し、9 月上旬に食品安全委員の GM 食品リスク評価担当者に説明を行った。Allergen online との違い等についての質問を受けたが、今後のリスク評価に本データベースを用いることについて了承が得られた。今後 ILSI HESI の了承を得て ILSI Japan の HP で本データベースを広く紹介することとした。</li> </ul> <p>(3) GM 微生物食品について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度精製食品として初めて L-Cit の安全性審査が終了した旨が報告された。</li> </ul> <p>(4) GM 作物について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Data transportability についての論文を 11 月中旬に投稿予定。今後、英訳を作成し、育種学会の了承が得られたら英訳を ILSI の HP に掲載する予定。</li> <li>・ 来年予定されている ERA に関する勉強会及びワークショップの準備状況が報告された。</li> <li>・ ISBGMO の報告については、年内に報告会を開催することが時間的に困難であるため、「イルシー」誌にて報告することで合意した。</li> <li>・ 7 月に開催したゲノム編集ワークショップの報告書は最終化され、「イルシー」誌に掲載予定。アンケート結果については HP にのみ掲載する。</li> </ul> <p>(5) 次世代シーケンスのリスク評価への活用に関する勉強会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品安全委員会及び化学物質評価研究機構から講師を招聘し、12 月に開催することとなった。</li> </ul> <p>(6) 2018 年の活動計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ERA 勉強会等、6 つのプロジェクトについて合意された。</li> </ul> <p>2. ERA プロジェクト調査報告の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 34 号を 10 月発行。</li> <li>・ 送付リストの見直しが終了し、次号より使用予定。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ No.151-300 の集約版の準備に遅れが出ているため、35号と一緒に12月に発行することとした。</li></ul>
11, 12月	